令和元年度 わたしたちの「越前町」の決算報告

わたしたちの予算が「まちづくり」のためにどのように使われたかを報告します。

■全会計の決算状況

令和元年度の一般会計、特別会計、企業会計を合わせた歳入総額は216億7,379万5千円で、前年度より6,757万8千円の増、歳出総額は209億9,168万8千円で、前年度より1億284万5千円の増となりました。また、歳入総額から歳出総額を差し引いた収支は、6億8,210万7千円の黒字となりました。

そのうち、教育や福祉、土木など一般的な行政運営をまかなう一般会計では、歳入が143億2,346万円で、前年度より8,229万5千円の減（0.6%減）、歳出が135億9,428万5千円で、前年度より6,330万1千円の減（0.5%減）となりました。

（単位：千円）

区分 / 会計			歳入決算額 (A)	歳入決算額 対前年度比(%)	歳出決算額 (B)	歳出決算額 対前年度比(%)	歳入歳出差引残額 (A)－(B)
一般会計			14,323,460	▲0.6	13,594,285	▲0.5	729,175
特別会計	国民健康保険事業		2,382,378	0.5	2,378,449	2.1	3,929
	介護保険事業		2,432,715	3.3	2,390,807	4.0	41,908
	後期高齢者医療事業		264,389	▲1.6	262,827	▲2.0	1,562
	簡易水道事業		450,501	▲3.8	443,994	▲4.1	6,507
	公共下水道事業		721,977	17.6	708,447	16.6	13,530
	集落排水事業		290,221	▲8.6	284,129	▲9.1	6,092
	温泉事業		21,879	▲26.0	20,782	▲25.9	1,097
	農林漁業体験実習館事業		28,007	8.5	28,007	8.5	0
	土地区画整理事業		26,830	47.9	26,830	47.9	0
企業会計	上水道事業	収益的収支	272,756	▲0.9	264,154	▲2.1	8,602
		資本的収支	92,926	14.8	158,993	6.5	▲66,067
	国民健康保険病院事業	収益的収支	304,510	▲7.3	302,530	▲5.5	1,980
		資本的収支	61,246	21.6	127,454	▲9.0	▲66,208
合計			21,673,795	0.3	20,991,688	0.5	682,107

※決算額の千円未満を四捨五入しています。

■一般会計・歳入決算の状況

一般会計の歳入総額は、前年度と比べて8,229万5千円減少しました。

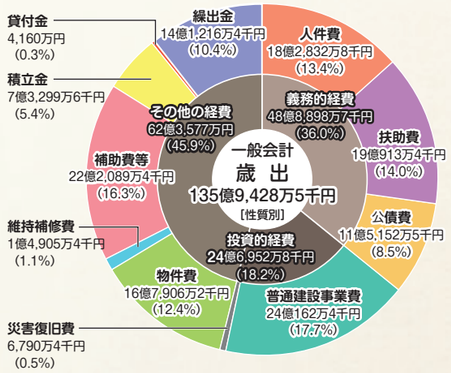
減少した主な要因として、幼児教育無償化に伴う私立保育所保育料や広域保育受託料などの減により分担金及び負担金が1億8,810万5千円減少（71.3%減）したことや、統合学校給食センター建設の完了に伴う起債の借り入れ減により、町債が1億2,030万円の減（6.6%減）となったことなどが主な要因です。

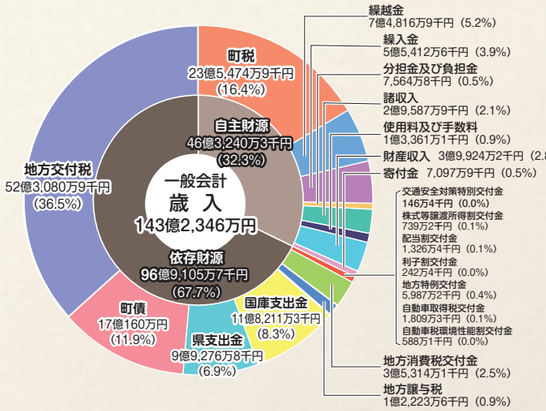
また、前年度からの繰越金が減少したことにより、繰越金が2億8,698万6千円の減（27.7%減）となったことも要因です。

■一般会計・歳出決算の状況

一般会計の歳出総額は、前年度と比べて6,330万1千円減少しました。

減少した主な要因として、統合学校給食センターの建設完了に伴い、普通建設事業費が2億3,099万6千円の減（8.8%減）となったことや、平成20年度に借り入れた朝日中学校建設事業や鯖江・丹生消防組合丹生分署建設事業の起債の償還が終了したことにより、公債費が1億1,907万3千円の減（9.4%減）となったことが要因です。





（ ）構成比

快適で安全に住めるまちづくり

●人に優しい道路網の整備

安全・安心に通行できる道路を確保するため、国の補助金を活用しながら、町道の改良や維持補修、消雪設備の整備などを行いました。

5億4,264万6千円

●美しいふるさとの景観保全

重要文化的景観の選定による越前海岸の水仙畑と農村景観の保存、活用を目指し、有識者や水仙農家、福井県、関係自治体と連携を図りながら文化的景観保存計画を策定しました。

264万8千円

景観法に基づき良好な景観を形成するため、また、「越前海岸の水仙群生地」の重要文化的景観の選定を受けるため、策定委員会を開催し景観計画を策定しました。

532万4千円

▲重要文化的景観の選定を目指す「越前海岸の水仙群生地」

●地域防災力の向上

防災士を対象とした研修会を行い、防災士による組織「防災士エキスパートえちぜん（BEE）」の設立準備を行うなど、防災力の向上を図りました。

73万5千円

誰もが健康で暮らしやすさを実感できるまちづくり

●子育て環境の充実

西徳寺保育園が認定こども園へ移行することに伴い、国・県の交付金などを活用し、園の移転新築に要する費用を補助しました。

1億6,211万2千円

●子育て支援体制の強化

1歳6か月児・3歳児健診の他、発育発達の様子を確認し、就学に向けての準備を開始することを目的に、学校教育部門、保育所と連携して新たに5歳児健診を実施しました。

230万3千円

人が輝き豊かな心が満ちあふれるまちづくり

●学校教育施設の整備・充実

小中学校の特別教室に空調設備を設置し、老朽化した施設の改修を行い、快適で安全・安心な教育環境の充実を図りました。

1億1,900万2千円

●スポーツ施設の整備・充実

東京オリンピックキャンプ誘致に向けて、人工芝ホッケー場の人工芝張替を行いました。

1億5,624万6千円

▲国際的な公式試合にも対応可能な人工芝ホッケー場

人と仕事の活力みなぎるまちづくり

●漁村の活性化

漁業経営体の経営基盤を強化し、漁獲量の増加に向け大型定置網の沖道網導入に対して支援することで、漁業の持続的安定的な漁獲の確保を図りました。

1,950万円

●商業経営の安定化支援

旧地区単位で発行していたカードを統一した「えちぜんeカード」を新規に発行し、加盟店へのカード機の設置費用、カード作成費用の一部を補助しました。

584万2千円

ふるさとの個性を活かし交流を育むまちづくり

●文化財の保護・継承

平成22年度から5年にわたって発掘調査を行った番城谷山古墳群の調査成果を整理し、「番城谷山古墳群発掘調査報告書」を刊行しました。

146万4千円

▲発掘調査を行った「番城谷山古墳群」

持続可能な健全行政のまちづくり

●行政拠点施設の整備

防災拠点機能を備え、町民の安全と安心を守り、町民が利用しやすい越前町役場新庁舎建設工事を実施しました。

6億8,741万7千円

▲まもなく完成する役場新庁舎

越前かに太郎の家計簿

2ページの「令和元年度一般会計決算の歳入額と歳出額（性質別）」を1,000分の1にし、「越前かに太郎」の1年間の家計に置き換えてみました。

収入

①給料	235万円
・町税（町民税や固定資産税など、みなさんから納められた税金）	
②財産・臨時収入	98万円
・使用料（町の施設や設備の利用料など）	
・負担金（町の事業で利便を受ける人が負担するお金）	
・諸収入（貸付金の元利収入や団体・個人からの負担金など）	
・財産収入（町の土地などの売却代金）	
・寄附金（個人や団体から寄附されるお金）	
③貯金の取崩し	55万円
・繰入金（町が積み立てているお金（基金）の取崩しや特別会計・企業会計から受け入れるお金）	
④前年度の残金	75万円
・繰越金（前年度決算からの繰越金）	
小計（A） ※自主財源	463万円
⑤支援金	799万円
・地方交付税（国から交付されるお金）	
・国・県からの補助金（法律などに基づく交付金や事業の実施に対する補助金）	
⑥借入れ	170万円
・町債（銀行などからの借金）	
小計（B） ※依存財源	969万円
収入合計（A）＋（B）	1,432万円

支出

①生活費	573万円
・人件費（各種委員の報酬や職員給与に係るお金）	
・物件費（施設の管理費や事業の委託料など）	
・補助費等（団体などに対する負担金や補助金）	
②医療費	191万円
・扶助費（子どもや高齢者、障がい者の福祉などに係るお金）	
③借金の返済金	115万円
・公債費（町債の元金及び利子の支払いに係るお金）	
④家の増築や車の購入費	247万円
・普通建設事業費（町の施設や道路などの新・増築や大規模な設備の購入に係るお金）	
・災害復旧費	
⑤修繕費	15万円
・維持補修費（町の施設の修繕に係るお金）	
⑥子どもへの仕送り	141万円
・繰出金（特別会計や事業会計に支出されるお金）	
⑦貯金	73万円
・積立金（基金に積み立てるお金）	
⑧知人への貸付金	4万円
・貸付金（団体などに対し貸し付けるお金）	
支出合計	1,359万円

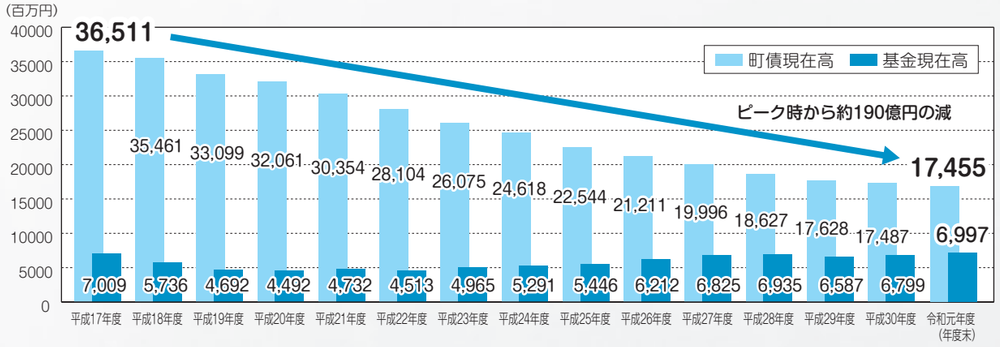
■町債（借金）と基金（貯金）の年度末現在高の推移

令和元年度末の一般会計、特別会計、企業会計を合わせた町債（借金）の現在高は174億5,551万6千円で前年度より3,110万7千円の減少、基金（貯金）の現在高は69億9,661万2千円で前年度より1億9,810万8千円の増加となりました。

町債の発行（借金）は、元利償還金（返済金）を上回らないよう、計画的に事業を実施するなど、町債現在高を着実に減少させ、財政の健全化を進めています。

また、基金は、地方財政法に基づき、前年度の余剰金の半分を積み立てることにより、事業の実施や収入の減少など、将来的な財政負担に備えています。

町民1人あたり現在高
町債（借金） 約82万円
基金（貯金） 約33万円
※それぞれの現在高を、令和元年度末の越前町の住民基本台帳人口21,218人で割って算出しています。



わたしたちのまちの財政状況

令和元年度決算の健全化判断比率と資金不足比率は「健全」

健全化判断比率と資金不足比率は、地方公共団体の財政の健全化に関する法律により、各年度決算に基づき算定されます。

この比率には、法律で定められた早期健全化基準や経営健全化基準があります。比率のいずれかが基準を超えた場合は、財政健全化計画や経営健全化計画を策定し、財政の早期健全化や公営企業の経営の健全化を図らなければなりません。

越前町の令和元年度決算ではすべての比率が基準を下回り、財政は「健全」となっています。

令和元年度決算の越前町の財政指標

財政指標区分	越前町	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率	黒字のため健全	13.91%	20.0%
連結実質赤字比率	黒字のため健全	18.91%	30.0%
資金不足比率	全会計で資金不足無し	20.0%	—
実質公債費比率	9.1%	25.0%	35.0%
将来負担比率	16.2%	350.0%	—

■実質公債費比率は9.1%

「実質公債費比率」とは、町債（借金）の返済額などが標準財政規模（※）に占める割合です。町債の返済額などには、一般会計だけでなく、上下水道・病院の公営企業会計、ごみ・し尿処理や消防の業務を行う一部事務組合に対する町からの負担金のうち、団体の借金の返済に充てられたとみられる額も含まれています。この比率が高いほど、町に対する借金に関係する負担が大きいことになります。

普通交付税の額や臨時財政対策債の発行可能額が減少したものの、朝日中学校建設事業などの大型事業の償還終了により町債の返済額も減少したため、単年度実質公債費比率は減少しました。

一方で、比較的数値の低かった平成28年度の単年度実質公債費比率が算定対象から外れたことから、実質公債費比率は、令和元年度決算では9.1%となり（3か年平均）、前年度と比べ0.4ポイント悪化しました。

（※）町税や普通交付税、各種譲与税・交付金など、使途が限定されない通常の年間収入の合計額

■将来負担比率は16.2%

「将来負担比率」とは、町全体の借金額（将来負担額）が標準財政規模に占める割合です。将来負担額は、次のものなどの合計です。

- 町債（借金）の残高
- 上下水道・病院の公営企業会計の借金の返済に充てる一般会計などの負担見込額
- 職員の退職手当支給予定額

一方、基金（貯金）の残高など（充当可能財源）があれば、将来負担額から控除することになります。

この比率が高いほど、現在背負っている借金などが将来財政を圧迫する可能性が高いことになります。

町では、町債の残高の縮減や財政調整基金への積立てにより将来的な負担の軽減を図ってきました。

この結果、将来負担比率は、令和元年度決算では16.2%となり、最も比率の悪かった平成19年度と比べると135.2ポイント改善しました。しかし、前年度と比べたところ、本庁舎整備事業や人工芝ホッケー場改修事業など大型事業の実施より起債残高が増加したため、6.4ポイント悪化しました。

令和2年度9月補正予算の概要

9月補正予算の補正額は、次のとおりです。（※補正額は6月補正後に専決した予算も含まれています。）

予算規模

	補正前予算額	補正額	補正後予算額
一般会計	158億7,926万8千円	4億2,713万7千円	163億640万5千円
特別会計	64億9,661万1千円	5,714万2千円	65億5,375万3千円
事業会計	8億2,612万円	410万円	8億3,022万円
合計	232億199万9千円	4億8,837万9千円	236億9,037万8千円

【主な補正内容】

■新型コロナウイルス感染症により売り上げが落ち込む町内の民宿・旅館・飲食店を応援するため、プレミアム商品券の発行や宿泊クーポン券の発行、支援金の給付に係る費用を計上
（7,540万円）

■小中学生一人一台タブレット端末等を整備するほか、災害等の緊急時に在宅で学習を継続できるよう可搬型通信機器の整備費用を計上
（1億9,032万8千円）